

平成 23 年度 文部科学省 研究開発評価シンポジウム  
**研究開発機関の現状分析に基づく  
研究戦略の在り方について**

**パネル・ディスカッション**

東京, 富士ソフト アキバホール  
2012 年 3 月 6 日

# パネル・ディスカッションの目標

---

研究開発機関の現状分析に基づく研究戦略の在り方について、

- 第1部における講演，実例紹介，委託調査報告  
(大学，独立行政法人等の研究開発機関における研究マネジメントを実施する上での，研究開発評価を活用した具体的な実例等)も踏まえて，  
関係者間で認識・情報・経験の共有を図ることを狙いとする。
- 大学，研究開発独立行政法人等の研究開発実施機関，  
資金配分機関といった  
現場において取り組むべき方策の要点や具体的内容，および，  
想定される課題について，検討を深めることを目標とする。

# テーマの背景

---

## 1. 現状分析および戦略形成におけるデータの活用の進展

- (1) 証拠に基づく政策立案・戦略形成の進展
- (2) 公開商用データベース等の活用

## 2. 第4期「科学技術基本計画」(2011年度－2015年度)の策定とこれに基づく政策の推進

- 政策形成・執行に対する基本的考え方の転換
  - 社会的重要な課題への対応が前面に出た推進方策

◆ いずれも、我が国固有ではなく、先進国に共通する状況である

## 研究開発評価に関する基本的方針に関する最近の動向 (1/2)

---

- 「国の研究開発評価に関する大綱的指針」改定  
(平成 20 年 10 月 31 日 内閣総理大臣決定)
- 「文部科学省における研究及び開発に関する評価指針」改定  
(平成 21 年 2 月 17 日 文部科学大臣決定)
- 「研究開発評価システム改革の方向性について (審議のまとめ)」  
(平成 21 年 8 月 4 日  
科学技術・学術審議会 研究計画・評価分科会 研究評価部会)  
第 4 期科学技術基本計画も視野に入れた  
評価システム改革の課題とその改善方策についての検討

## 研究開発評価に関する基本的方針に関する最近の動向 (2/2)

---

- 第4期「科学技術基本計画」  
(平成23年8月19日閣議決定)

- V. 社会とともに創り進める政策の展開
  - 3. 実効性のある科学技術イノベーション政策の推進
    - (4) 科学技術イノベーション政策におけるPDCAサイクルの確立
      - ① PDCAサイクルの実効性の確保
      - ② 研究開発評価システムの改善及び充実

- 「国の研究開発評価に関する大綱的指針」見直し  
(総合科学技術会議 評価専門調査会等において検討中)
- 「文部科学省における研究及び開発に関する評価指針」見直し  
(「国の研究開発評価に関する大綱的指針」改定に対応できるよう、  
科学技術・学術審議会 研究計画・評価分科会 研究開発評価部会  
において検討中)

# パネル・ディスカッションにおける主な論点 (1/2)

---

研究の質を高める研究開発評価の実施と活用のために, ...

0. 研究開発機関の目的に応じた研究戦略および研究評価は、  
いかにあるべきか？
1. 論文書誌情報分析というツールを用いた研究開発機関の現状分析は、  
いかにあるべきか？  
また、戦略形成に向けて、現状把握のために、  
さらに将来展望のために、ほかに何をどのように分析すべきか？  
そして、分析結果を用いて、またそれ以外の方法で、  
どのようにして戦略を形成すべきか？
  - a. 過去－現在－将来； 客観的データ／主観的データ； 定量的データ／定性的データ
  - b. データとして観測・観察できる情報／できない情報
  - c. 研究開発活動の協働やネットワークの把握； 競争／相互補完； 集中／補強
  - d. 研究開発機関で共用できるような標準的データ／データベースがあれば有用か？

## パネル・ディスカッションにおける主な論点 (2/2)

---

2. 研究開発が（学術面以外に）もたらす  
経済や地域，社会などへの広範なインパクトをどのように把握し，  
それらのインパクトの評価（アセスメント）をどのように行うべきか？

# 研究の“インパクト”の定義の例－ REF<sup>\*1</sup> < 連合王国 (UK) > の場合

- インパクト (impact)<sup>\*2\*3</sup> :  
学界を超えた, 経済, 社会, 文化, 公共政策・公務, 保健, 環境,  
あるいは生活の質への  
効果, 変化, 便益
  - 害, リスク, コスト, 悪影響の削減/防止を含む
  - 研究や高等教育部門内での学術的知識の増進へのインパクトは除く
  - 学生, 教育, 自機関の他の活動へのインパクトは除く
  - 基準 (criteria) :  
“ 差し伸べの範囲 (reach)”, “ 意義 (significance)”

\*1 Research Excellence Framework : UK における高等教育機関への研究に関する資金配分の根拠とするとともに, 研究に対する公共投資への説明や, 投資による便益の証拠の提供, 相互比較可能な情報の提供を目的とした, 研究に関する広義の質についてアセスメントする新たなしくみであり, 現在は 2014 年中のアセスメントの実施に向けて準備が進められている。

\*2 HEFCE, SFC, HEFCW, and DELNI, 2011, “Assessment framework and guidance on submission,” REF 02:2011.

\*3 「インパクトには, “... いかなる地理的所在における”, “ 聴衆, 受益者, 共同体, 有権者, 組織, 個人 ” の “ 活動, 態度, 意識, 行動, 能力, 機会, 遂行, 政策, 実践, 過程, あるいは理解 ” に対する “ 効果, 変化, 便益 ” が含まれる。」

# 研究の“インパクト”の領域の例－ REF<sup>\*4\*5</sup> < 連合王国 (UK) > の場合

---

- 保健, 福祉
  - 社会, 文化, 創造性; 市民社会, 文化的な生活
  - 経済; 経済的繁栄
  - 教育
  - 商業
  - 組織
  - 公共政策, 公務, 法律; 政策形成; 公開講演
  - 生産
  - 実践者, (専門的) サービス
  - 環境
  - 国際開発
- これらの領域に対応する, より具体的なインパクトの内容が例示されるとともに, これらのインパクトについての証拠や指標の例も示されている

---

\*4 HEFCE, SFC, HEFCW, and DELNI, 2012, “Panel criteria and working methods,” REF 01:2012.

\*5 領域により, 例示は異なる部分もある.